



# 南高SSHだより

第7号  
H26.10.16  
新潟南高等学校  
SSH部発行

## SSC (スーパーサイエンスクラブ) 夏の尾瀬研修

期日：平成26年8月23日(土)～8月24日(日) 一泊二日

場所：尾瀬沼、尾瀬ヶ原 (福島県、群馬県)

宿泊：長蔵小屋 (尾瀬沼畔)

去年に続き、今年も尾瀬に行ってきました。尾瀬は何回行ってもその時々で表情が違い、新しい発見があります。

8月23日(土)12時30分、沼山峠から登山開始。オオシラビソ、コメツガ、トウヒなどの針葉樹林帯を歩きます。針葉樹林特有の香りが満ちます。生物の授業のよい教材です。去年も出会った、巨大なナメクジ、ヤマナメクジに、今年も出会いました。事故に遭い、かわいそうな状態でした(登山道を横切ろうとして、人に踏まれた)。森と湿原の境には、昨年にはなかった、シカの防止柵がありました。植物を食い荒らすシカが、湿原に入らないようにするものです。生物の授業や、トキ研修で学んだことです。ちょうど花の少ない時期ですが、湿原には、昨年度同様、オゼミズギクなどの花々が見られ、旧友に出会った気分です。ヤナギランの丘で、平野家のお墓にお参りしました。懐かしい長蔵小屋に到着。今年の本館ではなく、おしゃれな別館に泊まりました。尾瀬沼ビジターセンターの職員の方から、自然観察会をしていただきました。キツツキ(アカゲラ)の巣を観察しました。本物の羽根にも触りました。キツツキの尾羽は堅く、木をたたくときの支点になるそうです。また、キツツキはさえずらなく、木をたたくドラミングでコミュニケーションをするのだそうです。鳥の足は4本指で、スズメは前3本、後1本ですが、木に垂直に止まるキツツキでは、前も後も2本ずつだそうです。この日の夕暮れは美しく、燧ヶ岳(ヒツガタケ)と尾瀬沼を飽かず眺めました。19時半からビジターセンターでスライドショーがあり、尾瀬の気象、動植物、オコジョやヤマネ、トイレの話などがありました。夜のはじめは曇っていましたが、遅くなると雲もとれて、満天の星空、天の川を見ることができました。



24日(日)朝5時前に起き、また、尾瀬沼に行ってみました。燧ヶ岳と三本カラマツが、霧の中に浮かび、幻想的な朝の情景です。7時に出発。尾瀬沼をまわり、ナガバノモウセンゴケやオタマジャクシなどを観察しました。沼尻で休憩。そこから尾瀬ヶ原へは山道を下ります。オオシラビソなどの針葉樹林帯から、ブナなどの夏緑樹林帯へ、教科書にあるように変わります。渡りをする蝶、アサギマダラにも会いました。10時30分頃、尾瀬ヶ原の見晴(シラ)に着きました。この頃から雲行きが怪しくなってきました。竜宮小屋を過ぎると、ザーという音が聞こえ、雨が降り出しました。そこでおにぎり2つのお弁当を食べ、カッパを着て再び歩き出すと、雨は止まりました。2年理数コースの生徒が研究している、ヤナギトラノオやミツガシワも見ました。オタマジャクシやイモリもいました。14時頃に山の鼻の到着。ここにもシカ防止柵がありました。山ノ鼻から鳩待峠まで、約1時間、厳しい登りでした。15時頃に鳩待峠の駐車場に着き、バスに乗り込むと、とたんに土砂降りの雨になりました。間一髪でした。つらい登りを急いでよかったです。



今年の参加生徒も5名でした。来年度はこれ以上の参加を希望します。宿題で忙しいかも知れませんが、上手に時間を作ってください。尾瀬に行くと、生物をはじめ、勉強になり、すばらしい自然を体験できます。